

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1. 事業の具体的内容について

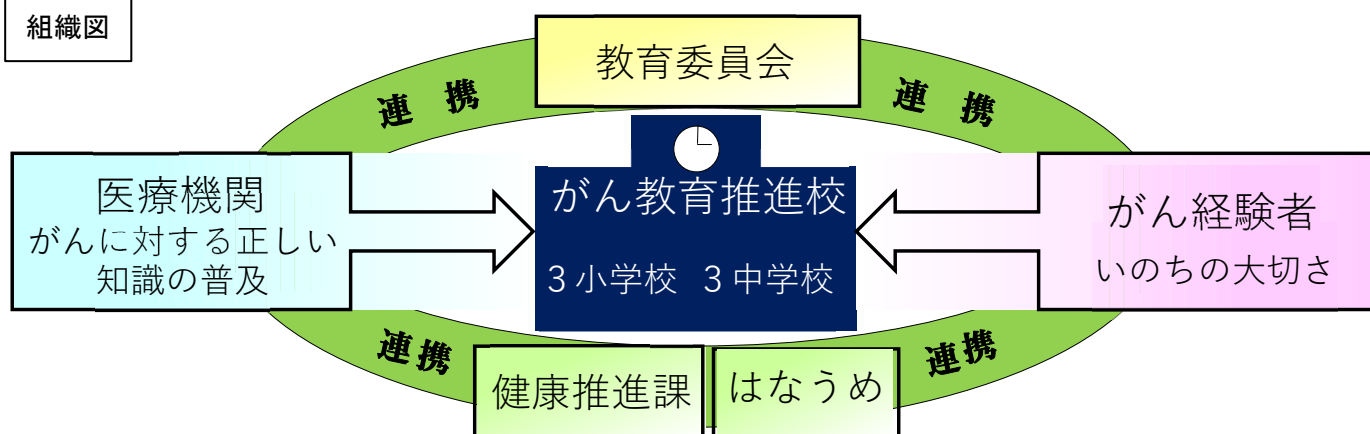
(1) 自治体における取組

① 協議会について

(ア) 推進委員 (計15名)

所 属	職 名	氏 名
金沢大学附属病院	医師(呼吸器内科)	矢 野 聖 二
金沢医科大学病院	医師(小児外科)	岡 島 英 明
金沢医療センター	医師(歯科口腔外科)	能 崎 晋 一
公立松任石川中央病院	看 護 師	松 田 紗衣香
萌の会	代 表	和 田 真由美
がん安心生活サポートハウス つどい場 はなうめ	ピアサポーター	橋 孝 典
がん安心生活サポートハウス つどい場 はなうめ	ピアサポーター	長 戸 朋 樹
加賀市立錦城東小学校	教 諭	辻 啓 太
金沢市立四十万小学校	教 諭	寺 地 憲 子
かほく市立外日角小学校	教 諭	渡 邊 めぐみ
加賀市立錦城中学校	教 諭	出 藤 里 望
白山市立鳥越中学校	教 諭	山 岸 健 吾
金沢市立紫錦台中学校	教 諭	鵜 城 紳太郎
石川県立工業高等学校	教 諭	生 田 佳 澄
がん安心生活サポートハウス つどい場 はなうめ	看 護 師	木 村 美 代
石川県健康福祉部健康推進課	技 師	塩 田 佳 穂
石川県教育委員会事務局保健体育課	課 長	瀬 戸 博 邦
	課長補佐	宮 西 良 岳
	指導主事	田 中 佳 代
	指導主事	丹 内 周 子

組織図



(イ) 開催時期、検討内容

○第1回連絡協議会 (於: 県庁) 7月8日

- ・ 事業趣旨の共通理解及びがん教育の推進に向けた計画の確認、日程調整等

○推進協議会 (於: 各推進校) 9月・10月

- ・ がんの教育に関する保健教育等の指導案作成
- ・ 研究授業の日程及び概要について打合せ

※学校の実情や生徒の実態等の外部講師との共有とそれに即した指導案検討の実施

※推進校と講師によるメール・WEB会議システム等を活用した打合せの確認

○「がん教育講習会」(オンデマンド開催及び資料掲載) 1月16日～2月7日

- ・がん教育の推進に向けた行政説明・推進校の実践報告
- ・中央講師によるがん教育についての講演

○第2回連絡協議会(於:県庁) 1月17日

- ・推進校からの実践報告及び県教委で取りまとめた報告等の実施
- ・実践を経ての情報・意見交換
- ・次年度の取組、がん教育の推進(外部講師活用等)の説明・依頼

② 教育委員会としての取組

- ・第1・2回連絡協議会の設定(事業についての説明・年間計画の確認、成果報告と次年度に向けて)
- ・推進校の選定・・・小学校3校、中学校3校、高等学校1校
- ・外部講師の派遣(専門医等4名、がん経験者3名)
- ・推進委員の各種研修への派遣
- ・学習指導案の検討
- ・「がん教育講習会」の開催(オンデマンド開催) 1月16日～2月7日
解説「がん教育の基本的な考え方」
講演「学校におけるがん教育の進め方」群馬大学 片山 佳代子 氏
各推進校による実践報告(学習指導案は保健体育課のホームページに掲載)

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

関係機関等との連携により、外部講師を招聘し、学校におけるがん教育の推進を図ることができた。健康福祉部健康推進課・がん安心生活サポートハウス つどい場 はなうめとの連携により、外部講師の活用体制の整備・運用・周知について検討することができた。

(2) モデル校における取組

① 加賀市立錦城東小学校の取組(研究授業実施日:令和6年11月26日(火))

- ・外部講師(がん経験者)を活用した授業実践
- ・テーマ:健康な生活を送るための知識や行動の仕方について学び、自分に合ったより良い方法を考え行動しよう
- ・教科:特別活動(学級活動)(授業時数:7/9時間)
- ・内容:「がん経験者の話を聞き、これからの自分の健康について考える」

養護教諭ともTTで実施。講師の話を直接聞くことで、がん治療を行う上では体力や元々の健康な身体が大切であることが分かり、児童が自らの健康を守るために自身の生活を見直し、健康な体作りに取り組みたいという意欲が向上した。また、家族と健康について話すことや、大人になったらがん検診を受けることへの理解にも繋がった。



② 金沢市立四十万小学校の取組(研究授業実施日:令和6年11月21日(木))

- ・外部講師(小児がん経験者)を活用した授業実践
- ・テーマ:がん患者との関わりや自他の健康と命の大切さについて考える
- ・教科:道徳(授業時数:4/9時間)
- ・内容:「身近な人ががんになったらどう接すればよいか考える」

自分たちと同じ年齢の時にがんになった講師に直接経験談を聞くことはとても心に残る時間となり、児童全員が健康な体づくりを行おうと感じるとともに、がん患者だけでなく、他の病気の人や障害がある人など、普段の生活の中で様々な人に思いやりをもって接することが大切だと理解し、人との関わり方について考えを広げることができた。



③ かほく市立外日角小学校の取組（研究授業実施日：令和6年11月18日（月））

- ・外部講師（小児外科医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんについて正しく知ろう
- ・教科：体育科・保健領域（授業時数：4／5時間）
- ・内容：「がんについて知り、がんを予防するために自分のできることを考える」

自身の生活習慣の乱れを理解していないことや、自分の健康状態への関心が低いことが課題として挙げられていたが、講師が4年生の児童にも分かりやすく工夫していただいたことで、児童ががんを身近な問題としてとらえ、将来どのように生活していけば健康に過ごすことができるのかを考えることができた。タブレット型端末（ミライシード）を活用してクラスの間々と交流し、生活習慣の改善に向けて協力しあう取り組みができた。



④ 加賀市立錦城中学校の取組（研究授業実施日：令和6年10月22日（火））

- ・外部講師（口腔外科医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんについての正しい知識を学び、自分や他者の未来のためにできることについて考える
- ・教科：保健体育科・保健分野（授業時数：4／5時間）
- ・内容：「がんの早期発見と治療」

グラフなどのデータを用い、科学的根拠から生徒たちがその大切さや必要性に気付くことができていた。また、講師からがんに関わる話を聞き、自身のライフプランの中で「がん検診」についてもプランを立て、今だけでなく将来の自分の健康や、大切な人の健康に気を配ることの重要性についても考えることができた。また、共有・発表の場面を設け、生徒それぞれが自身や他者の命の大切さについて考え、未来に向け思いを共有した。



⑤ 白山市立鳥越中学校の取組（研究授業実施日：令和6年11月22日（金））

- ・外部講師（緩和ケア認定看護師）を活用した授業実践
- ・テーマ：がん患者やその家族が直面する課題を通して、望ましい生活習慣について考える
- ・教科：保健体育科・保健分野（授業時数：4／4時間）
- ・内容：「家族や身近な人ががんと診断されたらどのような支援ができるだろうか？」

道徳科との関連を図り授業を展開した。「精神的なサポート」と「日常生活を送る上でのサポート」に絞って座標軸を活用して協議を行った。講師から、少しずつでもできることから改善していくことの大切さについて聞くと、相手の気持ちに寄り添う対応の大切さを理解することができた。また、10代でもがんを患う人もあることを話され、生徒たちのがんという病気への意識を高めることにもつながった。



⑥ 金沢市立紫錦台中学校の取組（研究授業実施日：令和6年11月19日（火））

- ・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんの現状、予防、治療に関する知識を身につけ、自分自身の生活を見直す
- ・教科：保健体育科・保健分野（授業時数：3／3時間）
- ・内容：「がんを知ろう～現状・予防・治療」

がんとはどういう病気なのか、がんの現状や予防、治療方法等について詳しく講師から話を聞き、その中でさらに調べ学習で得た情報から、家族に伝えたい内容をまとめる活動を行った。普段は聞くことのできない専門的な知識を直接見たり聞いたりすることで、がんについて考えるきっかけにもなり、自分自身の生活習慣だけでなく、大切な家族の生活習慣についても考えることができた。



⑦ 県立工業高等学校の取組（研究授業実施日：令和6年11月20日（水））

- ・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
- ・テーマ：「がん」と共生していく上での生活の質について考える
- ・教科：保健体育科・科目保健（授業時数：3 / 4 時間）
- ・内容：「がんの治療と回復」

「がんになっても生活の質を高めることができるのか」とし、がんに対する正しい知識を身につけるだけでなく、外部講師の方が実際に経験されてきた話を通じて、がんとは共生していくことについて考えるとともに、現在の自分の考え方や生き方に活かすことができるように実践した。講師の経験談を聞いた生徒たちは、意見や考えを共有しながら、がん患者の生活の質についてだけでなく、現在の自身の生き方や考え方についても見つめるきっかけとなった。

2. 事業の達成度について

①推進校における生徒アンケートより（対象：中・高校生約196名）

質問項目等		実施前	→	実施後
2)f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い ※「そう思う」と回答	23.0%	→	2%
⇒病気が発症しても気づかない間に進行してしまう場合があることや、早期発見であれば、治療して治る可能性が高いことが分かったことで、定期的な検診の必要性を感じたと思われる。				
3)c	「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。」 ※「そう思う」と回答	63.8%	→	79.6%
3)d	「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」 ※「そう思う」と回答	58.2%	→	76.0%
⇒どちらの項目についても、事前・事後ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する生徒は90%を超えており、生活習慣や検診についての意識は当初から高かったが、授業を通してさらに自分事として捉え、今後の健康な生活と関連付けて考えることができたと思われる。				
3)e	「がんになっても生活の質を高めることができる」 ※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答	69.9%	→	77.8%
3)f	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う ※「そう思う」と回答	45.4%	→	58.7%
⇒がん患者に対する正しい認識や共生の視点等について学んだことにより、がんになっても、自分らしく充実した生活をおくれるように、がんそのものに対する治療についてはもちろん、生活の質を改善する取り組みについて考えを深めることができた。また、そのことを家族など身近な人に伝える必要性を感じたと思われる。				

②研究授業参加者アンケートより（対象：管理職3名、教諭等12名、養護教諭等2名、その他5名）

	A	B	C	D
研究授業について	72.7%	27.3%	—	—
授業整理会等について	72.7%	27.3%	—	—

A：とても良かった、とても参考になった

B：良かった、参考になった

C：あまり良くなかった、あまり参考にならなかった

D：良くなかった、参考にならなかった

生徒たちは、がんに関する知識等について授業前からある程度有していたが、授業者による事前指導及び外部講師による科学的根拠に基づいた授業により、授業前より確実に知識の深化を図ることができた。また、今までがんに対して抱いていたイメージと、がん経験者の方から実際に聞いた話にズレがあることが分かり、「がん＝死」ではなく、自分の行動選択が未来につながるということを理解することができた。授業でのグループワークや外部講師との対話を通して、自分事として考えることや、命の大切さや共生の視点等についても理解を深め、自他の生き方等について考えることができたと思われる。がん教育を通して、自他の健康について考えることによって、生活習慣病等について自分事として捉える意識は確実に深めることができたが、実際に行動変容に繋がるように、保健体育科を中心に養護教諭等、学校全体での取組として継続して行っていくことが必要である。

また、ICT機器を活用して他学年や他クラスと授業内容を共有するなど、外部講師をより効果的・効率的に活用する取組が工夫されるようになった。

推進校以外の先生方への普及については、本県開催の「がん教育講習会」で①行政説明②特別講演③実践発表をオンデマンド開催したことにより、保健体育科の教員や養護教諭だけでなく、管理職や保健主事等様々な方に視聴していただくことができた。特に、今年度より小学校も対象に加え、さらに多くの先生方にがん教育について理解していただくと共に、興味関心や必要性と進め方について周知することができた。さらに、推進校による実践報告書等や関連教材を保健体育課のホームページで紹介することで、さらに広く周知するとともに、各学校での取組の参考にさせていただきたい。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 授業実践に向けてのイメージの共有
- 推進委員以外の推進校教諭や管理職の協力
- 指導内容等の一層の啓発（外部講師を活用したがん教育について）
- 柔軟な授業実践（教科・対象・時間等の設定）
- 外部講師の効果的な活用（学校のニーズ、授業形態に合わせた外部講師の決定）
- 外部講師の育成（校種に合った指導内容等）
- WEB会議システムを活用した打合せや授業実践
- がん教育の取組の効果的な周知（保護者・一般）

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 外部講師を活用したがん教育の実施についての周知
- ・ 他部局・関連機関との連携（健康福祉課、がん患者会）
- ・ 外部講師の育成（オンデマンド研修等を通して授業実践に向けての共通理解を図る）